農林水産省九州農政局

2026年11月 No.65

宮崎県拠点だより

宮崎県拠点のWEBサイトはこちらから▼

事例紹介 #27

持続可能な農業に向かって!!

地域ブランドを守る
◀須木の栗▶



晩生の「石鎚」や「岸根」を収穫中の﨑山さん



宮崎県の栗の栽培面積は全国４位、収穫量は全国６位(令和７年産作物統計調査)で、県内産地の多くが中山間の傾斜地で栽培しています。

県内の主要産地の一つである小林市須木では、約130名の栗・柚子生産者が参加する「須木果樹振興協議会」を組織し、地元の加工販売事業者「すき特産」が事務局を担い、行政がイベント開催や販売促進などの支援を行いながら、地域全体で須木ブランドを守っています。

須木で栽培されている栗の品種は約10～15種類と多様で、生産者が好みや時期に応じて選択し、作業性向上と日当たりを確保するために、低樹高栽培を行っています。8月下旬から10月中旬頃まで収穫し、その後は柚子を収穫します。

同協議会会長の﨑山雅彦さんは、約14年前にUターンし、父親から栗栽培を引き継ぎました。約2.7haの樹園地で、昨年は約５ｔ収穫できましたが、今年は昨年の半分程度になる見込みです。毎年対策を講じても変動する収量は、天候や降雨量、温暖化の影響等によると思われますが、明確な原因は特定しにくいのが現状です。

収穫した栗の多くを出荷している「すき特産」は、生産者単独では難しい販路確保やブランド化を支える重要な役割を果たしています。

また、一般消費者に直接販売できる「栗まつり」を、今年は日数を増やして開催するなど、地域の活性化に繋げています。

懸念されるのは、生産者の平均年齢が70代と高齢化が進んでおり、今後、担い手不足が深刻化することです。肥料などの資材価格も上昇しており、経営環境も厳しさを増しています。

個人経営だけでは労働力確保や収益の維持が厳しく、企業による農業参入によりブランド産地の生産の維持・継承が期待されます。

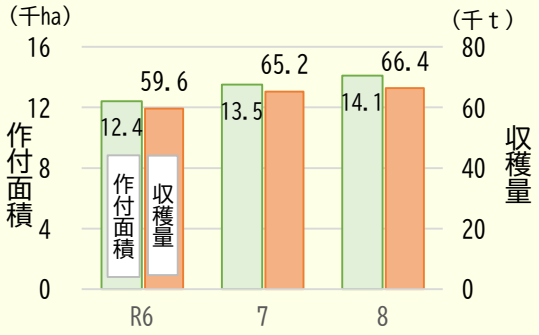


栗や柚子の加工品を販売する「すき特産」の平川代表

宮崎の水稲

令和８年産水稲の作付面積及び９月25日現在の予想収穫量

宮崎県の令和８年産水稲の主食用作付面積は、14,100ha(前年産比600ha増)が見込まれます。
主食用の生産者が使用しているふるい目幅の収穫量は、66,400ｔ(前年産比1,200ｔ増、102%)が見込まれます。



▼生産者ふるい目幅10a当たり収量

	宮崎県	対前年差
合計	471kg	98%
早期	461kg	96%
普通期	480kg	99%

拠点のうごき

10月4日　高千穂町 ▶

高千穂町は、町が目指す持続可能な農業の方向性を伝えるため、県内６番目となる「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。
「夢見る給食」上映会＆オーガニックマルシェの会場で、宮崎県拠点は、パンフレットの配布やパネルの展示を行い「みどり戦略」のＰＲを行いました。



高千穂町オーガニックビレッジ宣言
(左から教育長、町長、地方参事官)

◀ 10月19日　木城町

昨年1月にスマート農業の生産方式革新実施計画認定を受けた、合同会社継(けい)のオランダ式高軒高ハウスが完成しました。
約1.4haのハウスでは、きゅうりの養液栽培が行われ、環境制御を活用し定植時期をずらすことで、きゅうりの周年収穫が可能になります。



オランダ式高軒高ハウス(外観)

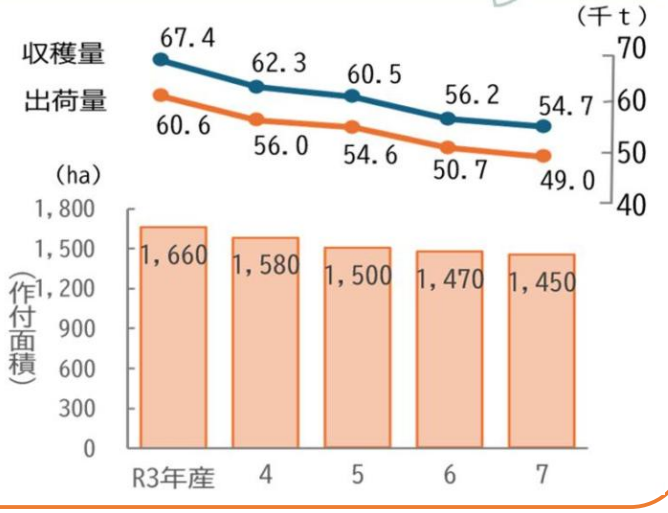
データで見る宮崎の秋冬野菜！

◆宮崎県の令和７年産指定野菜のうち**秋冬さといもの作付面積**は**全国１位**の**728ha**となりました。
また、**収穫量11,200ｔ**、**出荷量9,250ｔ**はいずれも**全国２位**です。
◆同じく**秋冬だいこんの作付面積**は**全国３位**の**1,450ha**となりました。
また、**収穫量54,700ｔ**、**出荷量49,000ｔ**はいずれも**全国４位**です。

宮崎の秋冬さといも



宮崎の秋冬だいこん



●本紙の記載内容や農政についてのご質問、ご意見等お気軽にお問い合わせ下さい。

●宮崎県拠点　地方参事官室
TEL　0985 - 24 - 2365
〒880-0801　宮崎市老松２丁目３-17

編集後記

スーパーの店頭には、秋の味覚である多くの果物が並ぶようになりました。今月号は須木栗の生産者を取材しました。日本人は縄文時代から栗を食べ始め、稲作が普及する弥生時代以前に、主食に近い食べ物だったと言われています。この栗がこれからも美味しく食べられるよう、産地の維持・再生を願ってやみません。（I）